

## 国内初、市民版環境白書「グリーン・ウォッチ」発行 日本の環境政策を市民・環境 NGO が評価分析

国内75団体の環境NGO/NPOから構成されるグリーン連合は、今年5月、国内初となる市民版環境白書「グリーン・ウォッチ」を発行する。グリーン連合は、昨年6月5日（環境の日）に、気候変動や化学物質汚染など様々な環境問題に取り組む国内の環境NPO/NGOの連合組織として設立された。グリーン連合では、発足以来、政府や国会議員などに積極的に働きかけ、懇談や意見共有の場を設けてきた。また、NPO/NGOが社会の持続性を支える不可欠なセクターとして、より多くの市民の支持を得られる力強い存在になることを目指して市民社会へと働きかけてきた。

今回、発行することとなった市民版環境白書「グリーン・ウォッチ」は、グリーン連合が設立当初より主要活動と据え、編集委員会を組織し、会員団体メンバーを中心に執筆編集を行ってきた。その内容は、気候変動・エネルギー問題、化学物質問題、原発問題など主要な環境政策をレビューしたほか、東京電力福島第一原子力発電所の事故から5年の歳月を経た今も続く被害と政府の対応について評価分析などを行っている。また、日本の環境政策が、経済優先社会の中で歪曲されている現状を分析する章を設けて、国内環境政策に横串を刺した構造についても評価している。

なお、グリーン・ウォッチの表紙・裏表紙のイラストは、ハイ・ムーンの名で知られる京都大学名誉教授の高月紘先生にご提供いただいた。また、本ペーパーの印刷・頒布にあたっては、平成28年度地球環境基金の助成を受けて頒布する計画である。

### <グリーン・ウォッチ>

発行日：2016年5月14日

ページ数：128ページ

発行：グリーン連合

編著者：グリーン連合「グリーン・ウォッチ」編集委員会

※目次、編集委員メンバー、グリーン・ウォッチ発行の趣旨（はじめに）は別添参照のこと

**問合せ： グリーン連合 「グリーン・ウォッチ」編集委員会**  
**編集責任者 藤村コノエ（環境文明21内）**  
〒145-0071 大田区田園調布2-24-23-301  
電話：03-5483-8455 Email: [greenrengo@eco-future.net](mailto:greenrengo@eco-future.net)

# グリーン・ウォッチ 目次

---

はじめに

## 第1章 主要な環境政策のレビュー

- 第1節 気候変動とエネルギー
- 第2節 再生可能エネルギー
- 第3節 原発問題
- 第4節 化学物質

## 第2章 福島原発事故の被害と政府の対応

- 第1節 いまも続く被害
- 第2節 避難政策の問題点
- 第3節 避難指示の解除と住民の意向
- 第4節 骨抜きにされた「原発事故子ども・被災者支援法」
- 第5節 健康影響
- 第6節 作業員の被ばく労働
- 第7節 行き場のない原発事故由来の放射性廃棄物

## 第3章 なぜ環境政策がうまく進まないのかー日本の環境政策の問題点

- 第1節 「経済優先」に屈伏した環境政策
- 第2節 歪んだ環境政策形成のプロセス
- 第3節 なかなか発動されない「予防原則」
- 第4節 ビジョンに基づき、戦略性ある環境政策へ
- 第5節 実効的な政策形成参加に向けて

トピックスー国内外の注目すべき動き

グリーン連合会員団体紹介

## グリーン・ウォッチ編集委員

---

委員長 藤村コノエ（環境文明21）

委員 中下裕子（ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議）、加藤三郎（環境文明21）  
桃井貴子（気候ネットワーク）、松原弘直（環境エネルギー政策研究所）  
伴英幸（原子力資料情報室）、篠原ゆり子（FoE Japan）、杵本育生（環境市民）  
古瀬 繁範（地球と未来の環境基金）、山田岳（ただすのもり環境学習研究所）

## グリーン・ウォッチ はじめに

---

気候変動の激化は異常気象や自然災害の形で国内外に大きな被害をもたらし、様々な化学物質による汚染は目に見えない所で拡大するなど、私たちの生命や社会・経済活動の基盤である「環境」の悪化はますます深刻さを増している。また、東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故は、全世界に原発の危うさと私たちの文明の「豊かさ」に対する根源的な疑問を投げかけた。さらに、世界を見渡せば、環境の破壊のみならず、貧困、格差、紛争、移民・難民の大量発生など社会・経済上の諸問題もますます危機的様相を深めており、このままでは人類社会の存続さえも危ぶまれる状況にある。

これらの問題は、これまでの私たちの価値観や暮らし方、技術、社会経済システムに起因している。特に今日私たちが依拠している経済は、科学技術の絶え間ない進展を前提に、地球の有限性や真の豊かさなど考えることなく、その規模の拡大と効率性の追求に明け暮れるものであり、多くの人と組織が、過去も現在もこの道を志向し続けている。

しかし、世界人口が70億人台の半ばに達し、今後も毎年8,000万人前後の増加が見込まれていることに加え、一人一人が物質的に豊かで快適な生活を求めている中では、かつては“無限”と考えられていた地球の環境やそこに存在する各種資源は、20世紀後半から劣化の兆しを見せ始め、今では、専門家のみならず良識ある市民なら誰もが認識できるまでに悪化している。

そのため、問題解決に向けては、現状追認・対策型の小手先の取り組みでは不十分であり、科学的根拠に基づく倫理的で政治的な判断と人間の叡智に基づく大きな社会変革を伴う根源的な取り組みが不可欠である。しかし、残念ながら国内では、根源的な政策転換は遅々として進まず、持続性を蔑ろにした短期的な経済重視の政策が優先され続けている。

こうした状況を憂い、私たち日本各地で活動する環境NPO/NGOは、様々な環境問題を克服し、「環境」を基軸とした民主的で公正な持続可能な市民社会を築くために、互いにつながり結集して、強く政治や社会に働きかける必要があることを認識した。そしてNPO/NGOが社会の持続性を支える不可欠なセクターとして、より多くの市民の支持を得られる力強い存在になることを目指して、2015年6月5日にグリーン連合を設立した。

グリーン連合では活動の一環として、市民版環境白書「グリーン・ウォッチ」の製作に着手した。その目的は二つある。

第一に、政府とは異なる視点から日本の環境問題の現状や対策の問題点を分析し、多くの人に知ってもらおうことである。

環境問題に関心を寄せる人にとって「環境白書」と言えば、政府発刊の年次報告を思い浮かべるだろう。この白書には、環境分野の三つの基本法が規定する分野ごとに、環境の状況と、政府が国際社会とも協調して環境保全のために講じた施策や今後講じようとする施策を中心に記述されている。また取りまとめは環境省が行うが、記述内容は閣議決定を経て国会に報告（この時点で国民にも公表）されるため、環境保全に関係する全省庁が編集・執筆に関与する、政府全体の報告書という性格をもっている。

そのため、この白書は政府の立場から環境の状況を評価し、施策の妥当性や正当性を国民に向か

って説明する文書であり、私たちNPO/NGOの立場で各種の環境問題に日々取り組む専門家集団の認識や評価とは、必ずしも一致しないこともある。それが本質的に重要でない場合は両者の見解や立場の相違とすればいい。しかし現状では、国民の適切な判断に資さない、あるいは国民の認識や評価を間違った方向に誘導したり、中長期的観点から国益に繋がらないと思える重要事項がいくつもあり、これを見過ごすことはできない。

そこで、日本の健全な環境政策を推進するには、政府とは異なる視点からの認識や評価を知って頂く必要があると考え、市民版環境白書である「グリーン・ウォッチ」を発刊し、できるだけ多くの人にお届けすることを決めた次第である。

第二に、政府とは異なる視点からの情報を提供し、NPO/NGOの考え方や活動を知って頂くことで、環境問題への関心を高め、解決に向けた市民の参加や行動を促したいという思いである。

環境問題は私たち一人一人に関わる問題であるにもかかわらず、解決に向けて行動する人はあまり増えていない。確かに、国内でも雇用不安、経済格差や貧困、教育や福祉の問題など、環境問題以外の今日的課題は増大しており、行動の効果や実感が見えづらい環境問題への取り組みを躊躇することもあろう。しかし、水や空気や大地といった「環境」は、全ての生命と日々の暮らし、社会・経済活動の基盤である。その基盤が危機的状況にある中で、様々な環境問題を克服し、人間として心豊かに生きることのできる持続可能な社会を築くには、その解決を政治家や官僚、一部専門家だけに委ねるのではなく、全てのステークホルダーが環境の現状を的確に把握し、それぞれに相応しい貢献が重要である。そして、グリーン・ウォッチがその行動のきっかけとなるのではないかと考えている。

2015年12月、気候変動の激化に対応すべく全ての参加国のもとに「パリ協定」が採択されたが、今後、環境に関連する一連の問題に正しく対処し持続可能な社会の実現を目指すことは、もはや選択の問題ではなく、人類社会の生き残りをかけた最後の機会と言っても過言ではない。

執筆に当たっては、良識ある市民の皆さん、企業関係者、政治家（地方議員を含む）、メディア（外国メディアを含む）、学生など多様な方々に読んで頂くことを念頭に置いた。また当然ながら、この白書は政府や一部企業を批判するためのものではなく、むしろ日本が、持続可能な社会を追求する国際社会と一体となって、問題解決に向けて取り得る政策の方向性を提案することも意図している。

具体的には、第1章ではテーマごとに環境の現状や対策の問題点と解決の方向性について、第2章では福島の実状について、第3章では日本の環境政策に係る問題点を指摘し解決の方向性について私たちの考えを述べた。またトピックスとして、国内外の先進的事例を紹介した。いずれのテーマも多岐にわたる現状や課題・問題点があるが、今回は特に、政府との見解や評価の異なる問題、環境政策全般に関わる課題を中心に挙げた。

本書は、グリーン連合による第一回目の発刊であり、不十分な点も多々ある。今後、読者の皆さまからのご批判やご示唆を、次回以降の改善のための貴重なご意見とし、真に持続可能な社会づくりに役立つ市民版「環境白書」へと育てていきたいと願っている。

グリーン連合「グリーン・ウォッチ」編集委員一同